

ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える

ふるさと風

第203号（2023年10月） 秋号

（会報発行月…4・7・10・1月）

常世の風に吹かれて呟いて（10） 白井啓治

（故白井啓治氏の過去の記事から

一部を抜粋して連載しています。）

『夏日が二日続いて虫の声復活』

（2013年10月8日）

昨日、今日夏日が戻って来た。昨晩は、帰りが9時半過ぎだったので、虫の声に気付くことはなかったが、今日は太陽が落ちると間もなく虫達の声が高音に響き渡った。未だ辺りは日中に近い明るさなのに。

お犬様は、久しぶりの暑さで、一日グツタリと寝込んでいます。お散歩、お庭、ブラッシング等と声をかけても知らん振りである。お猫様は、この何とも嬉しくない暑さが快適なのか、押し入れの大好きな段ボールの箱にすっぷりともぐりこんでトイレ以外は出てこようとしない。ただ室温27℃湿度66、非常に半端な不快度である。

今日は、公演に備えて、マイク使用の声の練習をする。目いっぱい声を張ることが無いので、感情のとり方が多彩になり、我ながら愉しんで稽古する事が出来た。明日は、ユッキーちゃんの舞の最終調整をしなければならない。稽古はまだやるのであるが、新しい手直しは明日が最終となるだろう。昨日、ママコさんの前で舞っていた様子を見

ると大体完成と言つてよい。後は、感情の柔らかさをイメージできればもう完璧と言えるだろう。

（注：これは今から一〇年前の記事。ママコさんは「パントマイム」の第一人者で先日88歳でお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。）



（絵： 兼平智恵子）

『明けの茜に金木犀の香かく』

（2013年10月9日）

朝五時過ぎに散歩に出る。

お犬様は、誰にも会わない朝まずめが一番の間帯である。

庭先から道路に出ると、先ずはダッシュする。あまり長時間ダッシュされると付いて行けないが、お犬様も持久力なく直ぐに歩き始める。

今日の明けの空は美事に赤く焼けていた。台風の影響なのだろうか黒雲の間を縫うように赤の帯が流れるように現れた。その美しさについて立ち止まり暫し見上げてしまった。

朝茜に見とれていたら、猛烈な甘い香りに襲われた。

襲われるが当に適當する表現の、金木犀の香りなのだ。

明けの茜に金木犀の甘い香、こんなに見事に調和した強烈を最近出合ったことが無い。

これを三文の徳と言うのだろうか。

我が家の庭にも金木犀が咲いているのであるが、こんなに強烈に匂いを放っているのを聞いたことはない。

気分良く帰ってまた一眠りしてしまった。

気持ちよく眠っていたら、お猫様が小生の毛のない頭をパンチして早く起きろと言われてしまった。

太平なりと金木犀がいう。

ふるさと風の会会員募集中！

当会では、「ふるさと（霞ヶ浦を中心とした周辺地域）の歴史・文化の再発見と創造を考える」仲間達を募集しております。自分達の住む国の暮らしと文化について真面目に考え、声高くふるさとを語り、考える方々の入会をお待ちしております。

会の集まりは、1・4・7・10月初めに会報作りを兼ねた懇親会と各月末に雑談：勉強会を行っております。

会費は月額1,500円。（会報印刷等の諸経費）

※入会に関するお問い合わせは下記会員まで。

木下明男 090-4715-5527 兼平智恵子 0299-26-7178

伊東弓子 0299-26-1659 木村 進 080-3381-0297

編集事務局 〒315-0014 石岡市国府4-3-32（木村）

HP <http://www.furusato-kaze.com/>

甦る鹿の子C遺跡

—教育普及版—

兼平智恵子

「地下に眠る正倉院」と言われた鹿の子C遺跡は日本道路公団によりまず常磐自動車道建設に伴う記録保存のため、昭和五十四年十一月から昭和五十七年二月までの間に発掘調査が行われました。常磐自動車道は当初、東京都練馬区を起点として埼玉、千葉、茨城、福島を通過し、宮城県仙台市に至る総延長三五〇キロの高規格幹線道路で、茨城県内通過は昭和



五十六年四月の千葉県境から矢田部IC間の開通を始め、昭和六十三年三月迄に県内の全区間が開通しました。

「日本最古の文書が出土」などというタイトルで大々的に報じられました昭和五十六年五月十六日、ご記憶の方もいると思います。報じられてから、すでに四十二年の歳月が流れました。

鹿の子C遺跡をほぼ南北に走る常磐自動車道が計画されたのは高度経済成長が始まった昭和四十年代の始めであったそうです。計画にともない埋蔵文化財の分布調査が茨城県教育委員会によって行われ、鹿の子C遺跡は路線内に位置する遺跡と認定されました。しかし、現状では保存は困難であるとして、発掘調査を行った上で道路を通すこ

とになり、茨城県教育財団に発掘調査が依頼されました。

発掘調査を行った茨城県教育財団発行の「甦る鹿の子C遺跡」の冊子より抜粋しながらご紹介したいと思います。まず冒頭のご挨拶より「教育財団では、これらの貴重な文化遺産を克明に記録した発掘調査報告書を刊行いたしました。このような先人の残した貴重な文化遺産を、広く私たちの子孫に語り継ぐことが当財団に課せられた重要な使命の一つと考え、ここに小冊子を刊行することにいたしました。」

「鹿の子C遺跡は石岡市街地の北西、常陸国分尼寺跡の北方約三〇〇mの地点に位置し、標高二十二〜二十六mの台地上に所在しています。この遺跡の周辺には、各時代の遺跡が数多く所在していたことが知られ、古くから人々の生活の中心として発展してきました。」

「発見された遺構の数量
竪穴住居跡一六九軒、連房式竪穴遺構五棟
掘立柱建跡三十一棟、工房跡十九基、
土壇一三六基、溝十五条件、道路跡一条
柵列跡三条 これらの住居跡は、普通の集落跡では見られない計画的な配置がなされています。」
「鹿の子C遺跡から発見された遺物の中で最も注目すべきものが「漆紙文書」です。

漆紙文書とは国府から払い下げられた公文書が漆液の乾燥・硬化を防ぐ目的で、漆液を入れた容器のフタ紙として使用されたため漆が付着して現在に残った文書

漢籍様紙片(漢籍を書写したもの)・田籍文書(田地の坪付を記したもの)・具注暦(吉日などを具「つぶさ」に注記したもの)・戸籍(班田収授の基本と

なる台帳)・計帳(課税の為に毎年作成された基本台帳)・出挙「すいこ」帳(稲の貸与制度の貸付原簿)・人口集計文書(常陸国の人口を知る事が出来る)・調帳(地方の産物を貢納させる税)・兵士自備戎「じゅう」具(兵士が自分で準備する兵器を点検する為の帳簿)・その他判明した常陸国の氏族と地名

このような文書が二八九点という他に類をみないほどの多量の文書が発見されています」「遺跡の性格を私達に語りかけてくれる有力な手がかりの一つに土器がある。

土師器 弥生時代の流れを持つ土器、茶褐色の素焼きの土器

須恵器 ロクロを使って形を作り、窯を用いて高温で焼成

土師器、須恵器の内、墨書土器(文字がかかれています)一七九点、人面墨書土器(人の顔がかかれています)一四点、漆付着土器多数出土。」

「土製品

瓦(軒丸、軒平瓦、平瓦他)、埴(レンガ状度製品)、鞆羽口(ふいごはぐち、炉で使用する送風装置先端の筒状土製品)、硯(円面、転用硯)」

「石製品 砥石、紡錘車(糸を紡ぐ時に使うはずみ車)」

「銅製品 鈔帶具(腰帯の裝飾金具)」

「鉄製品 刀子、鏃、小札、釘、槍鉋、鑿、鎌ほか計一四六〇点」

「これらの遺物を通して、奈良時代末から平安時代初頭にかけての常陸国の様子をを知ることができます。」

以上「甦る鹿の子C遺跡」の文中より抜粋しながらのご紹介でした。

尚常陸風土記の丘の資料館と石岡小学校敷地内にあります石岡市ふるさと歴史館には鹿の子C遺跡から出土しました遺物、そして貴重な漆紙文書はレプリカとして展示されており、風土記の丘の有料エリアには、発掘された建物の跡の一部分が復元されています。

そして、現在でも石岡市教育委員会では定期的に鹿の子遺跡群の発掘調査が行われています。最近では令和五年四月五日～七月二日まで鹿の子遺跡群―古代の巨大鍛冶工房―と題しましてふるさと歴史館にて、あらたに判明したことが紹介されていました。

どうぞ常陸国分尼寺通りを北へ向かい三〇〇m、鹿の子遺跡の案内板が背にしていますゆるい登り坂を上がり、自動車道を眼下に、奈良、平安人の偉業に思いをはせてみませんか。是非お子さん、お孫さんと一緒に……。

参考資料 石岡市の遺跡

○華やかにあざやかに大舞台 曼珠沙華 智恵子



我が人生の回想 14

木下明男

ギター文化館誕生まで・・・③

ギター館の開館当初の記録は、館退職時に全て置いてきてしまったので、残念ながら私のうろ覚えでの記述になります。開館当初は、土日のみの営業で平日は休館でした。それでも、多くのギターファンが近隣県内外や都内を初め、全国から見学に来られました。ギター館がオープンしたのは1992年11月14日です。其のギター館は、スペイン瓦(オレンジ色)に白壁にドーム状の屋根。屋根を上から眺めると遠景の部分はギターの口輪(サウンドホール)の形、門からエントランスにかけてはギターの指板を模している。訪れた人たちが、知らず知らずにギターの中に入っているような作りになっている。そして、ギターに関わる多くの人々が出合い交流できる会館として作られました。

公共交通機関が極度に少ない、筑波山ろくの農村地域(石岡市八郷)に世界的なギターの殿堂「ギター文化館」があります。1990年1月に急逝した、世界的なフラメンコギタリスト「マヌエル・カーノ」のメモリアルホールとして建設が決まりました。建設前に、日本へ子息の「ホセ・カーノ」とエミリア夫人を日本に招き(同年11月)追悼公演を行いました。翌年1991年には、ギター館建設のプレ事業として凡そ1年間に渡りイスパニダ音楽祭を開催し、日本の音楽界に周知させました。此のギター文化館には、カーノ氏が長い間収集してきた(マヌエル・カーノコレクション)貴重なクラシックギターを収納することが決まっ

ていました。

このコレクションに含まれる貴重なギターの中には、名曲「アルハンブラ宮殿の思い出」を作曲した「フランシスコ・タレーガ」が使用した、稀代の名器「アントニオ・デ・トーレス」が含まれていました。

此のギター製作家「トーレス」は19世紀に活躍したスペイン人です。それまでヨーロッパ各地で発達を遂げていたギターの良いところを纏めて、現代ギターの原型を作ったと言われています。共鳴胴の内部にある仕切り板の置き方を工夫して共鳴音を膨らませ、伴奏楽器からソロコンサート用の楽器に変身させました。ピアノの発達とともに、それまでの主流だった「チェンバロ」や「リュート」が廃れてゆく中、スペインギターの伝統が残ったことに大きく貢献したと言われています。製作本数が少なかったトーレスのギターは、世界中で何本残っているかわからないと言われるほど貴重です。上野に有名ギターショップ(アウラ)を作ったM氏が、スペインでギターの修業時代にカーノ氏と親しくなり、巨匠カーノ氏から「自分のコレクションを日本で生かし保存して欲しい」と委託されていました。

其の「マヌエル・カーノ」は、全国労音の招きで何度も来日して公演を行っていました。全国労音は「マヌエル・カーノ」の功績を記念して、事業を考えていました。そして考えられたのが、「マヌエル・カーノ記念音楽事業団」でした。更に、国際ギター文化協会(I・C・G)へと発展し、全国展開の活動に進もうとした矢先に急逝してしまい、記念館の建設が決まりました。カーノ氏は、生前から「私のギターが、博物館などに弾かれな

い状態で、飾られているだけでは嫌！」と言って、彼のコレクションを欲しがる世界中の博物館等からの申し出を断っていた様です。その遺志を受け継いだ遺族が「マヌエル・カーノコレクション」の寄贈を承諾してくれました。ギター文化館は、ギターの歴史が分かるような展示と共に、併設したホールでコレクションの名器が、国内外の著名で一流のギタリストによる演奏ができる記念館になりました。

この時期、取手に東京芸大の一部移転が進み、水戸には音楽・演劇・美術の総合施設「水戸芸術館」も完成しギター文化館が作られ、茨城県が芸術の県として進んでいました。11月にオープンした「ギター文化館」は翌年3月より、入館料3000円で一般入場が始まりました。コンサートも10000円以下の低料金で開催されるようになりました。やがて、ギター製作工房も作られコンサートシリーズも数年後に始まりました。(第1回は長谷川きよしコンサート)更に、ギター製作展やシニアコンサート等(アマチュア)も始まりました。更に、カーノを記念するフラメンコギターコンサートも開催されるようになっていきました。

地域に眠る埋もれた歴史(91) 木村 進

【民俗芸能と祭り】(5)

じやかもこじやん(柿岡)

中秋の名月(旧暦8月15日)の晩とその前の晩の2日に亘って行われる伝統行事「八幡宮太々神楽」を紹介します。

地元では「じやかもこじやん」と呼んでいます。



昔はもう少し遅い時間から始まって真夜中まで行われていたようですが、今は夜7時から11時までです。この石岡の八郷地区柿岡の街道から上宿信号を少し入ったところに八幡神社があります。神社(八幡宮)は煌々と明かりがともし長い幟り旗が4本ほど立っていました。夜空には中秋の名月が浮かんでいます。

鳥居の横の2本は「奏楽鈴懐太古」(奏楽そうそう太古をなつかしむ)と「舞容肅肅仰神祇」(舞容しゆくしゆく神祇(じんぎ)をあおぐ)と読むそうです。何時頃作られたものでしょうか。

境内には奥に舞台。手前の周りには数多くの屋台が並んでいます。神社の境内に作られたこの地区(荒宿)の公民館の中では、係の人と共に、今日の主役の可愛い巫女さんが4人おられます。

見た感じでは2人ずつ交代で2年間務めるのでしょうか? 親御さんたちも大変ですね。代々この地区に住む人の中から選ばれてきています。

昔この地区は「八幡町」と呼ばれていたようです。今は荒宿・西町・上宿・仲町と町名は変わっ

ていますが、この神楽はこの地区の長男が受け継ぐことになって守られてきました。

しかし、今では長男に限らずこの地区の人すべてを対象に保存会を結成して守っています。

境内にはお稲荷さんと子安神社があり、夜はきつねの目も怪しく光ります。

7時になる頃に境内も大分にぎわってきました。



さあ、いよいよ神楽のスタートです。

かわいい巫女さんたちは緊張した面持ちで舞台上がり右隅に座りました。

謂れでは、文禄4年(1595)長倉義興が、柿岡城主になった時に伊勢からこの神楽(24舞)を持ち帰り、そのうちの12座を継承してきたと言います。(それまで長倉義興は御前山近くの常陸大宮の長倉が居城でした)それから400年の長きにわたって続いてきたと伝わっています。

また柿岡は江戸時代には幕府の天領となっていた時代が長く続きました。このような祭りを残している何かがあったのかもしれない。

このような神楽は各地にまだ残されているところ

がたくさんあるようです。しかし、時代の波が現代的な合理的な生活スタイルが浸透してくると、都会の方からこれらの伝統行事が無くなって来ています。神社の拝殿は畳の広いほぼ真四角な舞台になっています。



最初は男性4人が舞う「国堅(くにがため)」です。日本の国を造った時、たくさん島々ができました。この島々が出来たのを喜んで堅めてまわるイザナギ・イザナミの2神の様子を描いています。

この舞は、旧八幡町に婿にやってきた男性が演じることになっていました。最初は2人だったのですが、いつの間にか4人で演じる様になったそうです。舞台の周りを4人並んでうれしそうに廻ります。この踊りは「早みこ」ともいうそうです。

この舞台は2方が開放されていますので、見物客は思い思いの格好で、舞台を取り囲んでの見物です。

さて、次は地元の小学生から選ばれた巫女4人が踊ります。巫女舞Ⅱ神子舞です。穢れのない女の子ということ、地元の10歳前後の子供から毎年

選ばれます。石岡には私の知っているところで他に2箇所同じような神楽が残されており、皆小学生の巫女さんが選ばれます。そういえば鹿嶋市の大生神社にも同じような神楽がありました。緊張した顔が印象的でした。

近くで見ていると足の運びに緊張感がにじんできました。一所懸命に練習に励んだのでしょうか。踊り終わった後の表情がとてもかわいらしいですね。この神子舞は十二座には入っていません。これを入れると十三になります。各神楽の途中で計4回別々の神子舞が披露されるそうです。

さて、次がこの「じやかもこじゃん」の言葉の元となったと思われる「老翁(おきな)」です。

天之御中主神(あめのみなかぬしのみこと)です。天上界の主神です。

剣を腰に差し、手に白い紙を持って、数回廻ります。紙で四方に種をまいているのでしょうか。

剣を抜いて、また四方を廻ります。剣で蛭族を平定しているようです。老翁は四隅でそれぞれ剣を突き立て、変な腰振りダンスを踊ります。

これは四方に柱を建て、地を固めている姿と言いますが、昔の事やはり少し別な意味合いもありそうです。

五穀豊穡、子孫繁栄・・・昔の古事記の世界かもしれません。「じやかもこじゃん」というのは、この踊りの事をいうようですが、踊りの時になる拍子の音がそのように聞こえるからというのが一

般的な説明ですが私は少し違うように思っています。舞台は地区の子供達も熱心にのぞきこんでいます。この子供達は、将来この伝統を継いで行ってくれるのでしょうか。

つづいて、キツネが登場します。「天狐(てんこ)」と「種嫁(たねがし)」の舞です。三部構成で、最初は天狐が一人で自由奔放に舞います。

天兒屋根命(あめのこやねのみこと)の孫、天種子命(あめのたねがしのみこと)をあらわしており、五穀豊穡の舞です。天兒屋根命は中臣家(後の藤原家)の祭神です。そこに種子命がやって来て、種まきをするのを天狐が手伝う様子を表現します。

最後に命(みこと)が高天原に戻ってしまうのを天狐は慕ってとび跳ねたりします。

ここで、1時間が経過しましたので残りは見ずに引き揚げてきてしまいました。終わるのは夜11時頃だそうですので演じる方もかなり大変です。

残りの9つの神楽は

4、龍神(天御柱命)

5、地法(ちのり)・赤鬼(タケミカズチⅡ鹿島

神宮の祭神)

6、神酒(みき)の舞(天兒屋根命)

7、西ノ宮大神(蛭児之神)

8、鈿女(うずめ)(天鈿女神・・・猿田彦と結婚)

9、岩戸

10、戸隠(天手力男命)

11、猿田彦の大神

12、山の神(天大山祇命)

この最後の舞の時に餅が撒かれます。それを急いで拾うのだそうです。



年貢はどうする

伊東弓子

小川に用たしに行く途中、大宮神社の奥に輪を見た。帰りにはもう片付けられていた。昨日は大祓い・夏越祭だった。一年の半分が過ぎてしまったと改めて思った。年賀状の便りもまだ充分にまとめないのには情けなく思う。ああ七月、文月”
急いで終わらせようと心を締めた。

七月、ふづき、ふみつき（陰暦七月の異名）

七月に詩文を作る文月とも。草木の実の熟する
ふくみ月の略ともいう。

半夏生の花が静かな木立の中で咲いていた。こ
こ半月、じりじりと照りつける毎日。挨拶は“暑
いね”“今日も暑いね”“そうだよ、元気なのは草
だけだよ”その一方で日本中あちこちで水害が起
きている状況も他人事であつい暑いと愚痴がでる。
蟬が朝夕鳴き出したのは七月始め、二、三日続い
てそれっきりだった。

小暑 七月七日（旧五月廿日）〜廿二日

やや暑熱を催す。暦の上では夏の終わり
晩夏の季節となる。暑中見舞いを出す頃、
夏採り果菜類の収穫が本格化する時期
七月も中半すぎの頃から蟬も派手に鳴きだした。

7〜11日温風至（あつかぜいたる）

温風（あつかぜ）とは真夏から夏の末
にかけて吹く温かい風のこと。

12〜17日蓮花開（はすはじめてひらく）

蓮の花が咲き始める時期。池の蓮田に
咲く花は、早朝の涼しい時期が見頃

18〜22日鷹乃学習（たかすなわちかく

しゅうす）この年に生まれた鷹の幼鳥
が飛ぶことや獲物の捕り方を習い巣立
ちに備える時期。

八坂神社の祭りの日、朝の中掃除があつた。鎮
守の森も、土砂崩れ防止の工事が始まって、木々
が伐採されて逆に崩れてこないかと不安の中の祈
りが始まった。福宜さまも年老ったんだ。足元が
悪い”と、何人かで支えている。ガギ坂も一曲り
になった。下高崎の老人会（菜の花の会）で玉里
御留川について話をしてほしいとのこと。一番知
ってほしい地域の人なので念入りに準備をして話
したが、どこまで理解されただろう。

大暑 七月廿三日（旧六月六日）〜八月七日、

夏至から数えて約一ヶ月、夏の最後とな
る二十四節気です。梅雨が明けて本格的
な暑さがくる時期、小暑から大暑までを

一年で最も暑いという意味。暑中とよぶ。
朝六時に“いづみ”との散歩が始まる。一日の

出発には相応しい時間だが三十分、一時間と歩い
ていると、陽の光が暑さを発し、ほとほと辛くな
る。そんな或る朝、釣りをしていた人が“山棟蛇
（ヤマガラシ）がいつからよ”と、竹棹で水面を叩
いていた。叩いている時は逃げていくように見え
るが、すぐ岸の方へ戻ってくる。“蜷（マムシ）と
同じで毒もつてから、こつちの岸へ上って貰いた
くねえんだ”と言っている。

23〜27日桐花始結花（きりはじめては
なをむすぶ）桐の花が咲き実を結ぶ時
期。形は卵型で堅い実。

28〜8月一日土潤薄暑（つちうるおうて
むしあつし）土がじつとりとして蒸し
暑いさまを指す。大地も万物も熱せられ

て熱く温度も高く暑苦しい時期。
2日〜7日大雨時行（たいいうときどき

ふる）夕立や台風が近づき、時として
大雨が降ることがある時期。

あちこちの夏祭りの話を聞く。何故か胸が躍
る。でも現実には思うようにはいかない。柿岡、片
野の祇園祭には行けなかった。小川の祭りは友と
遠くから見ている。高浜の祭りは淋しく離れた所
で見、楽しみにしていた石岡の祭りは行かなかつ
た。暑いのは否応なしに毎日続いた。機械化された
今と違って自然相手に人力で暮らしていた頃“水
争い、人手不足と収穫も儘ならない中で、年貢も
収められなかった人々、逃げ出した人々、死んで
いった人々、地獄ともいふべき状況だったろう。
改めて先祖の姿を思い浮かべてみた。

八月、はづき（陰暦八月の異名）

木の葉の黄落しはじめる葉月とし、稲の穂のは

る月の略。

八月に入つて、読み人知らずというこの句を耳にした。

“八月は六日、九日、十五日”恐ろしい出来事のあとに平和を誓つた筈だったのに、今世界中で起きている戦争、あちこちで燻っている臭い、そして日本はと身近に感じていかないと、と思う。実行出来ることは何か。長いこと一緒に活動したり、喋ったり笑ったりしてきた友や身近かな仲間の体の調子が悪くなつてきている。

立秋 八月八日（旧六月廿二日）〜廿二日。秋の氣始めて立つ。この日から立冬までは秋。実際には一年で一番暑い時期になる。

盆前にとつた草とりも暑さのため、夕方といつても夕食づくりにおわれ、朝早くは犬の散歩と婆さんの一日は結構忙しい。その上、動きは鈍くなり動き出すまで時間がかかる。

8〜12日涼風至（すず風いたる）||暑い風が収まり、秋の涼しい風が吹くようになる頃。

13〜17日寒蟬鳴（ひぐらしなく）||蜩（ヒグラシ）が鳴き始める頃。寒蟬とは蜩や秋に鳴く蟬。

18〜22日蒙霧升降（ふかききりまとう）||深くて濃い霧がもうもうとまとわりつくように立ち込める時期。

坊主の悪口を言っていた女が二人いつの間にかと死んでいったという話を耳にした。よくよくの罰当たりか、今の風潮か葬式もすんだか、済まないかわからないし、盆の頃は戸締めだったとか。

暑い夏もこれで終わりか？と男が言っていた。

処暑 八月廿三日（旧七月八日）〜九月七日。

この頃から暑さも少しずつ収まりはじめ、涼しい初秋の風も感じられる日がある頃。

23〜27日綿柎開（わたのはなしべひらく）||綿を包んでいる花の萼（がく）が開き始める時期。かつては綿の栽培も各地で盛んに行われていた。

28〜9月2日（天地始肅（てんちはじめてさむし）||肅とは「縮む」「衰える」の意味。やっと暑さも収まり始め、秋の氣配が漂いだす時期。

3〜7日禾乃登（こくものすなわちみのる）||粟や稻などの穀物が実る頃となる。禾とは稻などの穀物のことをさす。

夕方高浜の広い田の美しいこと。近くで見る一枚一枚と全く違う。休耕田か、早米の田か、遅米の田か、全体のなかでの一枚一枚が夕陽を受けて何て彩りのよいこと。その中を走って帰るも疲れは感じない。久しぶりに沖洲から大井戸を走っていた時、園部川の川口に長い島か、霞ヶ浦の水底が・・・と思う程の驚き、それは砂洲だとわかった。後日見た時は、草が生えて白鷺が群がって休んでいた。この俣だと島が出来るかなと一人楽しんでいたら、議会では問題になっていた。堤防下から釣人が海老が釣れたよと答えてくれる。暑い暑い日は過ぎたが心は冷え切っていた。

九月に入ると稲刈りが目立ち始めた。蟬の声も少なくなつて、夕方から夜にかけて虫の大合唱に癒される。今年の米の出来はいい。

九月、ながつき（陰曆九月の異名）

夜長の意とも稲刈月からともいわれる。

暑さは誰も同じだったろうが、私にとつての不安、悲しみ、代表としての能力のなさからくる問題をかかえ、悶々と日を送っていた。

白露 九月八日（旧七月廿四日）〜九月廿二日

日中の暑さが収まる氣配を見せなくても朝夕はほんのわずかでも涼しい風が吹くようになる。白露とは「しらつゆ」の意味。朝夕の涼しさが際立ってくる時期になり、大雨や強風の被害に注意が必要な頃。

3〜12日草露白（くさのつゆしろし）||草の上に降りた露が光って白くみえるという意味。朝夕の涼しさが際立ってくる時期。

13〜17日鵲鴿鳴（せきれいなく）||小川や湖、沼などの水辺でセキレイが鳴き始める時期

18〜22日玄鳥去（つばめさる）||春に渡ってきたつばめが南方へ帰る時期

敬老会が例年にならつて行われたので参加した。敬われなくてもいいが、実にお粗末な行事だと感じた。もう一寸工夫が必要だと感じたが、こんなところでぼやいていても何らよくならない。実行委員会、役所に直訴してもよくならないか？うるさい人だと恨まれるだけかな。だから毎年同じ形で繰り返されるだけだ。

秋分 九月廿三日（旧八月九日）||十月七日

秋の最中。秋彼岸の中日に当たる。太陽は真東から上がり、真西に没す。真西の方向は極楽浄土の位置を示すといわれ、この日に日没を拝む習慣が盛んになる。コスモスが堤防を賑わせ始めた。あの暑さの土の中でじつと耐え、大部遅れて芽を出し始めたと思ったら花をつけた。五色の色が涼しげに揺れている。

23～27日雷乃収声（かみなりすなわちこえをおさむ）Ⅱ春から夏にかけて活動が盛んだった雷も、この時期にはその響きを聞かれなくなる。
28～10月2日蟄虫坏戸（むしかくれてとをふさぐ）時。

3～7日水始涸（みずはじめてかるる）Ⅱ水田から水を抜いて収穫に備える時期

堤防での散歩時、知り合いの声が“オー、この間釣った海老、煮てきたから食べろよ”という。つやを出すのに氷砂糖で煮て味をしみらせたという。大井戸の知り合いの人だった。いづみと食べた。男の人でも研究していると感動。甘味が口の中にとけていった。

その後、友と安食、終塚まで行った。大井戸稲荷の森から目おしで“玉里御留川”の線を引いた場所だ。田の殆どが刈り終わってきれいに片付いていた。友が「田はいいね」と言う。玉里地区の稲が草に負け刈りようもない姿で残っている。蓮が大部分く大きな葉も枯れきった。稲のあわな姿は何なのだろうか。消毒の時期が悪かった、天候のせいだろう。あれこれ聞くが、結局人がどうも

しなかったんじゃないだろう。年貢を納める必要もない現代は、あれこれ言っても何とかなるからだろうか。と食べることもままならず死んでいった先祖のことを思った。

リーンリーんと、美しくとも淋しくとも聞こえる虫の音も消えた。風鈴の音を久しく聞いていないと思ったら落葉の中に落ちていた。

国指定史跡 吉見百穴 小林幸枝

吉見百穴は古墳時代の末期（6世紀末～7世紀末）に造られた横穴墓で大正12年に国の史跡に指定されました。



現在確認出来る横穴の数は219基あります。各横穴は玄室、羨道の2部分からなり、その一部には天然記念物のヒカリゴケも自生しているそうです。

横穴墓は丘陵や台地の斜面を堀削して墓としたものといわれていて、死者が埋葬された主体部の構造

は古墳時代後期の横穴式石室とほとんど同じです。百穴が分布する一帯は凝灰質砂岩と呼ばれる比較的堀削に適した岩盤が広がっており、当時の人々は堀削するのに適した場所を探して横穴墓を作ったと考えられています。吉見百穴は明治20年に発掘調査が実施されていますが、その当時の情報は、わずかな写真と出土品を残すのみで詳細な情報はほとんど残っていないそうです。

地下軍需工場跡

現在、吉見百穴地下軍需工場跡内の点検、調査のため、地下軍需工場跡内には立ち入りができません。



昭和19年～20年に、吉見百穴とその周辺の丘陵地

帯に大規模な地下軍需工場が造られた。直径3メートル程の開口部を持つ洞窟が地下軍需工場の跡です。縦と横の洞窟がそれぞれ交差し基盤の目のようになっています。太平洋戦争の末期、米軍の大規模な空襲によって日本の航空機製造工場の生産能力は壊滅的な打撃を受け、当時、東京都武蔵野市の中島飛行機工場は、空襲から逃れるために地下に移転する計画がありました。昭和19年11月と12月の2度の空襲によって生産能力が10分の1に落ち込んだと言われています。そのため、現在のさいたま市にあった中島飛行機工場の移転の必要性が急速に高まり、生活物資の調達に便利で、掘削に適した場所である吉見百穴地域に軍需工場が造られることになったそうです。吉見百穴にある地下軍需工場跡は、こうした空襲を避けながら航空機の部品を製造する目的で造られたのです。

風と共に 《理》 (33)

大輪啓展

季節毎にテーマを変えて、

今回のテーマは、「魂」

お久しぶりです。

季節の変わり目という事もあり、徐々にはありますが、暑さも和らいできた10月の初め、皆さんはどうお過ごしでしょうか？

私の日課は愛犬の散歩ですが、小さい頃の躰により、家の中ではトイレをさせなかった都合上、暑くても寒くても、雨の日も雪の日も、眠くても疲れてても、365日休む事なく、

仕事に就く前の早朝から、仕事帰りの1番に、時には夜中のいつ何時でも、それがいつしか私のルーティンとなっています。

初めの頃は辛く感じましたし、今だからとて、楽なものではありません、動物を飼う前にはこうなるだろうと予測していながらも、初めての人間以外の命を育てる事に、甘く見ていたのも、言うまでもありません。ですが、飼うキツカケとなった娘のその時の切実な目には、勝てませんでした。

飼い始めて早6年目、すっかりと私に懐き、可愛くもあり時として喧しい事もあり、こんな幸せな悩みを持てるのも、何だか良いなあと感じるこの頃です。

さて、今回のテーマである魂について、多少スピリチュアルな部分も含みながら、前段でお話ししました愛犬との出会いから繋り、また、日々の出会いや影響性、人生における仲間としての絆であるとか、夫婦・恋人・友達・知り合い、何故かとても気になるんです、成る可くして成っている様で。

様々なお話を皆様と共有して来た訳ですが、これについてもある意味では、文書や物語を通して、読ませる側と読む側として、中には少なからず楽しみに読んで頂いている人も居たりして、そんな期待も込めながらこの瞬間を共有しているのは、とても感慨深い様に思います。

全てをこじつけるつもりはありませんが、何かどこかで魂の繋りと言った様な、そんな目には見えない何かがそこにはあるのでは無いかと、そんな風に思い皆様にお伝えしているところでありま

す。

少し話は変わりますが、人間の好意とは第一印象が多くを占めている事は、皆さんに良く知られている事実ではありますが、

ファーストインプレッションが酷く悪かったにも関わらず、後の大事なら人間になっている、これってあるのではないのでしょうか？

勿論全ての方々に当て嵌まる事では無いでしょうが、これを見て、「分かるー」って方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。

実は私もその1人なのですが、往々にしてある事ですが、

この人とは仲良くなれないな、無理だなあーって人こそ、近づいてみると自分と近しい考え方を持っていたり、自分が思いも付かない様な発想を持っていたりで、結果気がついていたら良く居るよねって、それって未来の親友だったり、共に同じ道を歩む同志だったり、恋人や夫婦になっっていく1つのキツカケになっているかもしれないね。

本当にこの世の中、いろいろな人がある訳で、だからこそ、世界は発展し、様々な理由で戦争をおこし、毎日怒ったり笑ったり、泣いたり後悔したり、人それぞれにその時のドラマが常に展開されている訳です。

そんな時ふと思えます、そのドラマ見てみたいと・・・、当然見られる訳もないのですが、近き人の人生ならば多少なりと見たたり感じたり出来ますが、ふと街を見渡した時に今どんなドラマが進行中なのかなって、偶に考えたりします。

話がだいぶ飛んでしまいましたが、赤い糸であるとか、相性が良いだとか、後からいくらでもくつつける事ができる物語、時として都合に合わせて、これらはマルっと合わせて、魂の何がしに関係してるんじゃないかって事なんです。勿論これは私の自論です。

でも、時に熱く、時に支え合い、時に共に泣き、時に悲しみを共有して、こんなアオハル、何歳になっただけあるし、魂が揺さぶられる何かを成し得る時、最高に気持ちいいじゃないですか。

たまにね、落ち込み過ぎると、誰にも分かってもらえない、独りぼっちだ。

なんて思うほど、沈む時もありますよ、ですが、誰かはあなたを見えています。

全世界に1人にならない以上、必ず誰かはあなたを気にしています。

それに気がつけるか、そこに甘えられるか、頼れるか、それだけなんですよ。

人それぞれドラマがあつて、魂の絆があつて、繋がりを持つて、日々を思つて、毎日を生きて、その時辛いのも自分だけじゃなくて、下向いてたら、何も見えなくて、世の中捨てたもんじゃないって、お節介も溢れてる訳、みんなで手を伸ばして、助けてつて言つて、その内きつと強い絆をもつた、たくましい魂に出会つて、辛かった事が何でもない様な日々に戻つて、新たな一歩踏み出そうよ。つて事に繋げて行きたいですね。それではまた。

思考探求 “天狗・河童伝承を思う”

西方保男

先頃、最近の喧しい世論について色々考えあぐねている時、ふと過日、大杉神社へ案内頂いた折のあれこれ思い巡らしたので、それを考察したい。土地の人たちは、大杉神社のことを通称「あんば様」と云うらしい。この「あんば様」とは一体何のことかといたく興味をそそられた。

この神社は、日光の二荒神社を聞いた下野(しもつけ)の人 勝道上人がこの地に來たとき建てたと伝えられている。勝道が二荒山を開いたのが神護景雲元年(七六五年)というから、かなり古い。

だが、しかしこの神社が有名なのは、「あんば信仰」による海人族系の祭りにあるというのだ。瀬戸内海の香川・徳島あたりから、関東の海岸地帯にかけて、「あんば信仰」は広範囲域で豊漁を願う漁民の信仰だという。この茨城県稲敷市阿波の大杉神社は、全国に六七〇社ある大杉神社の総本宮といわれている古社のようだ。

神社の鎮座する場所は『常陸国風土記』に「安婆嶋(あばしま)」として出てくる。原文、行方郡の条に、天皇すめらみこと(の世、軍士(いくさびと)を引率(ひきいて、行くゆく凶猾(にしも)を略(ことむ)け、安婆(あば)の島に頓宿(やどり)て、海の東の浦を遥望(のぞみ)たまひき、とある。稲敷郡桜川村にある浮島(信太郡の条にも浮島と見える)の別名かという。その対岸東方は阿波崎と呼ばれている。信太郡浮島村の条の記述からみて、この島は交通要害の地であつたと思われる。(常陸国風土記)

霞ヶ浦、利根川、下流域、牛久沼、印旛沼、小

貝川下流域などを内包する常陸内海(常総内湾)に突き出すような半島地形のようことから、古代においてこの地は内海に浮かぶ島のようなのだと言われていたようだ。

史家によると、律令体制以前この一帯は、菟上之国(うなかみのくに)という霞ヶ浦東海岸域(稲敷、行方、鹿島南部)と(東岸域)と東総域(香取、海上、匝瑳)を治めていた国の一部と伝えられている。

菟上之国(うなかみのくに)とも表記され、常総内海の交易、産物を中心として成立した小国で、ここに暮らす多くの人々は漁撈と農耕の両方を生活基盤としていたようなのだ。他にも、製塩や玉造(勾玉を中心とする信仰対象の装飾品の製作)も盛んで、当時の大切な交易物資であつたらしい。

次に、大杉神社について考えてみたい。

海、河の守護神あんばさまと巨大杉

当時、菟上之国(うなかみのくに)には広大な常総内海を支配域としていたようで、その内海の航路標識の役割を果たしたのが、この大杉神社の巨大な杉だつたようだ。航路標識、灯台だつたのか？

この地が「あんば」とよばれていたことから、巨杉に鎮座する神様は「あんばさま」と呼ばれた。この巨杉は常総内海の人々の信仰の対象としてまた海で生活する交通標識としてその役割を発揮していた。後に舟運交通守護の神様として篤い信仰を受けるようになっていき、海人族の守り神のよう存在だった。

律令体制期に、菟上之国(うなかみのくに)が内海の西にあった茨城国の一部に組入れられるまで、一般民衆の間では海や河の守護の神様としての大杉神社の信仰は根強く、温存され続けられてきた

漁民の信仰であった。

漁民の信仰といえば、仏教が日本に入ってきた中に、民間信仰の道教がある。こうした道教的仏教が日本に古くから入ってきている。

道教的な仏教が中国からやってきて日本に定着したのは長崎の唐人寺のようだ。福永光司「道教と古代日本」から、これは関西でいえば中国からやって来た人々―華僑を信者にして運営されていた宇治の黄檗山(おうばくさん)万福寺みたいなものらしい。ただ、万福寺は内陸部にあって海に臨んでいないが長崎の場合は、海に臨んだ港町だから、海難事故がしばしば起こった。そうすると、その海上交通の無事を祈願するための宗教的な行事や信仰が、また華僑によって中国から大幅に持ち込まれてくることになった。

長崎の唐人寺で代表的なものの一つが崇福寺でここには仏教の仏像と、道教の海難事故防止の祈願の麻祖(まさ)という女性神が祀られている。日本ではこの麻祖のことを天妃(てんび)と呼んでいた、天妃とはどのような神様だろうか？

この聞きなれない神の名は、中国の航海安全の女神のことらしい。中国伝承では、福建省(閩田(ほんでん)に林氏という漁夫がいた。

林氏の六女は出生する時、異常な光明が天の一角にあらわれたという。幼い時から聡明で八歳になった頃には、諸学に通じ、十二歳の時には宗教的信仰をもち、神術をもつて弱者を救い、物事すべて百発百中の靈感を供えていたので人々は神の再来と崇めた。二十八歳のとき、母子が溺死しようとするのを救おうとして、その犠牲にあつてしまった。人々は水上守護の女神として尊崇し、広東、福建浙江等の海辺の人々からは、海上守護唯

一の信仰対象となった。

朝廷からもその時代時代によって種々の尊号を贈られ、天后・天上聖母、あるいは娘媽神(のうましん)のことである。

九州野間の伝承では、海中に身を投じた娘媽のうまの遺体が野間岬に漂着したので、これを野間岳に祀ったのだとしている。

アタ族と野間の地名、娘媽振興は密着していて、アタ族の足跡と共に日本列島各地にそれが残っている。

この海難防止の天妃信仰はやがて華僑によって長崎に上陸してきて、それから水戸藩主の徳川光圀によって水戸に勧請され遠洋漁業の航海の安全を守ってくれる神として祀ったのが、現在も水戸にある天妃神社だという。

それから、当、茨城小川町には、小美玉市指定有形文化財として、木造天妃尊椅像及び四童子立像が天聖寺跡地に祀られ保存されている。案内には次のようにある。

天妃尊は中国における民間信仰の海上安全の女神である。金華山永福寺の僧である心越禪師は、曹洞宗を広めんと志し天妃尊を持参し海上安全を祈願しながら無事渡日した。長崎崇福寺に滞在していた禪師を義公(水戸光圀)が招致され、やがて祇園寺を開山された。

三世の蘭山は小川天聖寺開基となった時、義公より天妃尊を賜わり天聖寺へ赴任する時も大切に持参した。そして代々の住僧は小川の檀徒と共に尊崇した。とある

次に、「天聖寺跡(小川)航海安全の守護神をまつり、小川の歴史上の人物が眠る廃寺」ここにも天

妃尊の紹介があるので見てみよう。

小川図書館・資料館から西へ徒歩5分の場所にあります。天聖寺は宝永四年(一七〇七)、水戸の祇園寺(きおんじ)出身の蘭山(らんざん)和尚により聞かれましたが、天狗党の乱や明治三年(一八七〇)の出火により廃寺となりました。寺の一角には航海の安全の守護神である「天妃尊」が祀られています。墓地には歴代和尚や稽医館(けいいかん)・医学研究所を開いた本間玄琢(ほんまげんたく)など、小川の歴史上の人物が多く眠っている。とある。



さて、天妃と呼ばれるこの神はわが国では余り知られていない。

ところが、この神社の祭神は倭大物主櫛瓊玉(しみかたま)で、この神名は大和朝廷側の呼び方で、本当はニギハヤヒつまりホアカリのことらしい。つまり、大和朝廷が成立する以前の大和の先住部族の物部系の神だと史家近江氏は云う。

このことは『常陸風土記』や風土記逸文の信太郡創立のくだりにあるように「黒坂命が陸奥を征討しての帰り路で死んで、ここ日高見の国に遺骸が帰ってきた。そのときここを垂(しだり)の国といい、後に信太の国となった」とある。大杉神社

のあるところは、現在、稲敷郡だが、かつては信太郡だった・みたいだ。

余談だが、この大杉神社の本尊は今、市川市の歴史博物館の収蔵庫に保管され、大杉神社の承諾を得なければ拝観できないらしいという、本尊見たいが残念？

大杉神社の地名は、「阿波」だが、通称の「あんば様」の呼名は瀬戸内の漁民の信仰だった魚網の「浮き子」を神体とすることからきたとして、おそらく弥生時代かそれ以前に東進してきた海人族の信仰にもとづき、阿波徳島を連想しての地名らしい。

また、茨城県北部の海岸寄りの神社は、祭りに海水を用いる、尾根一つ越えた山寄りでは真水を用いているらしいが、海人系族と山人系族を表す痕跡なのかこれも興味がわく。

次に先頃、大洗地域にも足を運び、大洗磯前神社を尋ねてみた。

太平洋の大海原を一望に臨む海岸を見下ろす急な石段を上って行くと壮麗な隋神門、拝殿、本殿がある。



由緒は「日本文徳天皇実録」に平安時代齋衛三年(八五六)神磯に大己貴命・少彦命の二神が降臨

されたのが創建と記されてる。

古くは、大洗磯前薬師菩薩明神ともよばれ、福の神様、医薬の神様として慕われているらしい。徳川御三家の水戸光圀が神磯の景観を愛でて「あらいその岩にくだけて散る月を

一つになしてかへる浪かな」という歌を詠んでいる。



私の目にとまったのは、壮麗な本社ではない。

神社境内地の一角に存在する三社合奉斎殿・大杉神社・水神社・八幡宮の三社である。

これら三つの神社が本社の一画に摂社、境内社として社格を落とされ、合祀されていることに注目したのである。

この隣的那珂湊市にある酒列磯前神社もほぼ同時に創建されたといわれ、この両磯前神社とも式内の名神大社になっている。この大洗磯前神社の境内には、いま水神社と大杉神社という小さな末社が並んでいるが、水神社というのは水霊神、河童神のことだといわれている。大杉神社は霞ヶ浦の南岸、桜川村阿波にある神社で祭神は倭大物主櫛瓊玉やまとおおものぬしくしみかたまつまりニ、キハヤヒであることは前述した。

通称「あんばさま」と呼ばれ、神紋は「羽団扇はうちわ」だから天狗のことだ、そういえば天狗は「羽団扇」を持っている。河童と思えば、今度は天狗のお出ましとなってきた。



近江氏は、大杉については「大いなる洲処(すか)」の変化したもので、ここは砂鉄の一大産地であった。「あんば」が約まると「アバ」になり、「浮子うき」の意味になる。ここが昔から「夢の浮子島」と呼ばれ、「あばさま」はいつか「あんばさま」と訛り、漁師の水上安全の神様に変化していった。天狗と洲処(スカ)に現わされているように、元は産鉄民の奉斎した宮であったという。産鉄民は「すなどり」(砂鉄採取)から「漁すなどり」に変容したが、その信仰は残っている。さらに桜川村の大杉神社の創建は、鹿島神宮よりもずっと古いという。

由緒には次のようにある。

神護景雲元年(七六七)当時都が置かれた大和国(現・奈良県)を旅立った勝道上人は、下野国二荒山を目指す途上にありましたが、大杉神社に着くとそこで病苦にあえぐ民衆を救うべく巨杉に祈念しました。すると巨杉の梢に三輪明神奈良県三輪の大神神社)が飛び移り病魔を退散せしめたところ

ろから、やがて「あんばさま」は「大杉大明神」と呼称されるようになりました。この大杉神社を御守護申し上げるべく延暦二十四年(八〇五)には境内の一角に安穩寺が開基され、以降明治になるまで大杉神社は安穩寺が別当を勤めました、とあります。(以上 大杉神社縁起より一部抜粋)

次に天狗について、神話伝説事典から引いてみよう。

てんぐ 天狗

山中でのさまざま怪異現象に関して、それを起こす本体と考えられている妖怪。はげしい感情と怪力を持ち、羽団扇(はねうちわ)などの呪法によって自由に空中を飛び、清浄を愛して俗衆の近づくことを嫌う。赤ら顔で長い白髪、修験山伏のような服装は、山中の仙人や現実の修験山伏の姿の投影であろう。天狗の仕業と考えられている怪異現象には、山中で大木を挽く音と倒れる音が聞こえるが、行ってみるとなにごともないという天狗倒し、山中で多勢の人が大声で笑う声が聞こえるという天狗笑い、どこからともなく石が飛んでくる天狗つぶて、これは天狗が一定の道を通り、その道筋にあたるからだという。

また、神隠しを天狗の仕業としている例も多く天狗が情郎(かげま)にするために連れ去るという。何れにしても山の神の神意のあらわれを、あれこれ憶測するところに山中の怪異現象を生じ、さらに、山の修行者の戒律や物忌が形を変えて一定の像をつくりあげたものが天狗であり、山の神信仰の変遷とともに、その幻影も変化を重ねてきたものである。柳田園男『山の人生』

ひたちばうかいそん 常陸坊海尊

義経主従戦死の場に居合わせず、生き残って不老長寿となり、源平の合戦を詳しく知っていて、その顛末を語って歩いたという。不死長寿となった原因としては、衣川で老人に赤い魚を貰って食べたためとも書かれ、また富士に登って岩上の飴のようなものをなめたためなどと説明されている。この点は、八百比丘尼、清悦などと全く等しい。近世初期から海尊の存命を説く記録があって「義経紀」以外にその物語が語られていたらしいことが考えられる。漂泊唱導している間に、罪障消滅のために懺悔の生活をしているという考えに変わってきて、不死回國、さらに物語中にまで入りこむようになったのであろう。



柳田園男「東北文学の研究」(雪国の春所収)

てんぐだおし 天狗倒

山中での幻覚。大木を伐る音や倒れる響きがあるが、翌日行ってみるとなにごともない。これを天狗のしわざと考えている。

昔、紀州笠の山の天狗と、古座の浄土寺の真誉上人とは等しく交際していた。檀那の紺屋善兵衛がそれを聞いて、ぜひ一度天狗と話してみたいと思い、天狗の来る頃を見計らって寺に来て、天

狗と同座することができた。そこで天狗倒を所望した。すると天狗は、それは至極たやすいことだと言ってすぐに後ろの柱に羽をつけて伸びをしようと、たちまち家鳴りがし、つづいて天智山川が振動した。

この世も碎けるかと思われ、あまりのおそろしさに失心してしまった。上人が膝の下に抑えて押さえて、息をふきかえした。(『本朝故事因縁集』)

天狗の次は、熊本県八代の河童についての話です

熊本県八代市の不知火海に注ぐ球磨川河口に「河童渡来の碑」がある。伝承によると、昔、呉の国から九千坊とよばれる河童の一族が、この地に上陸してきた。河童の眷属(けんぞく)はやがて日本の各地に拡散して繁殖を遂げた。八代市では河童渡来にちなみ、日曆五月に河童祭りを催している。祭りの目、こども達は、「オレオレデーライタ」と掛け声をかけ、「渡来河童大明神」の御札を口にくわえ、球磨川に飛び込む。オレオレデーライタは「呉の国から、ようこそいらつしやいました」の意味だという。この伝承は非常に重大な要素を含んでいる。九千坊なる河童の群れが呉の国民ではなく、呉の軍勢に滅ぼされ、土地を収奪された江南の閩人(びんじん)が、以後の長い抑圧にたえかね、ボートピープルとなって九州に心天地を求めたのではないかと考えられるからである。

河童は小童とも称するが、小童はまた「ワダツミ」(海童)のこととする見解が、「日本書紀」成立の時代には存在していた。

水上生活者として知られる蛋民は、航海神として娘媽(のうま)を崇め、漁業水運をなりわいとして

きた。だが、その地位は極めて低く、社会的に賤視差別を強いられていた。

彼らが「南方の夷なり」「海上に水居する蛮なり」と片付けられ、さげすまされてきた紀元前からの屈辱は、明時代の行政に徴してもその一端を窺うことができる。

すなわち明の洪武帝（一三六八―九八年）は、広東に蛮民を統治するための河伯司（かはくのつかさ）を設けた。この役所は、蛮民に陸（おか）での生活をさせないため、かれらを監視する政庁として、河伯司が存在したのである。それは彼らを人間として扱わず、妖怪の河童並みとする恐ろしい賤視差別であった。

参考 常陸国風土記 道教と古代日本

産鉄族才才氏 河童アジア考

閉ざされた神々 記紀解体



（一）満州開拓団及び青少年義勇軍について

ヤマナカタダオ

旧満州（現中国東北部）の国家建設のために、日本国政府と関東軍は、1932年3月1日に、傀儡国家の満州国成立宣言をし、満州農業移民が始まりました。

満州開拓団として、満州に渡った人は、22万人おりました。出身県別のトップは、長野県で3万1000人、2位は山形県、3位は宮城県、4位は熊本県、5位は福島県が続いています。

昭和13年から20年の8年の間に、満蒙開拓青少年義勇軍の名目で、全国から15歳から17歳までの8万6530人の少年達が、内原町の訓練所で、3か月の訓練を行った。

主に農家の次男、三男が応募して、訓練の後に、満州に渡った。訓練所内には、300棟が立ち並び「日輪兵舎」と呼ばれる円形宿舎で約60人ずつ集団生活し、早朝にラッパの音で起床、農業や数学、武道などを習得した後に、満州に渡った。

（二）長野県阿智村の旅

2013年四月に、長野県阿智村に「満蒙開拓平和記念館」が開館したのを、ニュースで知り、今年の七月上旬に、知人と二人で、自家用車で、記念館を訪れました。

土浦から、約350kmを、高速道路に乗り、途中、何か所も休みながら、午後一時ごろに、中央道の飯田で下り、阿智村に入りました。一時間ぐらい、記念館を見学して、近くの昼神温泉のホテルに入りました。昼神温泉は、昭和48年に、温泉が出て、今年で50年の歴史があり、長野県の温泉としては比較的新しい温泉地でした。平日でしたので泊り客は、少なかったですが、おいしい料理が、沢山でした。ゆっくり、くつろぐ事が出来ました。二日目の朝は、6時から朝市が開かれ、100人ぐらいの宿泊客が、地元の農家の方が出した、野菜や加工品を買い求めています。朝食は、7時ごろに食べて、8時には宿を出まし

た。中央道に入り、山梨県甲府市の武田神社に立ち寄りました。

武田神社は、甲府市内のつつじヶ崎館の跡地に建てられており、武田信玄を祭神としている。開業は1919年（大正8年）でした。ところで長野県阿智村の人口は、8月1日現在で5834人でした。風景は、周りは、小高い山また山で、のどかな景色でした。

【風の談話室】 《読者投稿》

やまと暮らし（74）

さと女

新しく購入したばかりのスマホを落とす？電話もラインも・・・SNSも繋がらない。慌てて小美玉のドコモショップに駆け込むが、パスワードを失念していた。復旧が中々できず、多くの友達に迷惑を、心配をかけてごめんなさい。

【7月】

・先月コロナ以来、姉たちの住んでいる横須賀に2泊の旅。序に蒲田の息子の店（居酒屋）で食事・・・。その時、店先でスマホをガチャン、見事割れた。それも2週間前に交換したばかり・・・！ドコモショップにケースがなくどこかで買おうとしている矢先。息子との久しぶりの再会も考えることはスマホの事ばかり。次の日修理に出し昨日戻りましたが、なかなか復活できません。これからは気をつけます。回復がこんなに大変だとは。写真はほとんど回復せずラインもまだ・・・又ドコモに行つてきます。

・落ち葉や生ごみを貯めた堆肥処・・・そこから5〜6本の芽が出て、ツルが伸びて黄色い花が咲き??? スイカかなと期待していた。なった実はカボチャ? どんどんツルがのび畑いっぱいに被った。カボチャも大きく育って。今日初めて収穫した。重さを計ると3キロもあり、果してお味のほうはどうか? 2週間位寝かせてから食べてみよう。そう言えば昨年カボチャの種を捨てた事を思い出した。

・梅雨明けが待たれる・・・3〜4日の晴れ間続きに梅を干した。幸い天気予報が当たり3日3晩の天日干し・・・良い具合に仕上がる。梅雨明けには、梅狩りしてきた南高梅の梅処理が待っている。こうして、何気ない日常生活が送れる事に感謝の気持ちしかありません。

・この暑さ、何なんだ・・・? 息苦しさを感じる暑さ、40度を超えた地域も有るとか。今朝、夫に頑張ってブルーベリーを収穫して貰う、いつもより大粒のようです。この異常な暑い夏を乗り越えようと、スムージーにして飲んだ。若いお母さん達との縁があり、午後からお寺の会議室でクラフトの籠作りをした。住職さんの奥さまも参加され、皆さん3時間程で素敵な可愛い籠が出来上がり、若い方のエネルギーを沢山頂いた。

・柿岡八坂神社の祇園祭・・・土曜日午後5時頃から、柿岡の街並みが歩行者天国になると言うので、市役所支所の駐車場に車を止め、ぶらぶら街並み歩きをした。私の子供の頃は、柴間の部落にも子供達が沢山いて、歩いてか? 自転車だった

か? ゴロゴロ出かけたものです。手には50円位握りしめ、5円だったキャンディーとか買って、柿岡のお祭りは本当に待ち遠しいもの・・・。街並みは当時から変わってなく、神輿や獅子、さら、山車など、当時の記憶と交差させながら二時間程楽しんだ。午後6時頃からだんだん人も出始め、4年ぶりの祭りは賑やかだった。

・彼方此方で祇園祭が・・・今日は大增地域の祇園祭です。花火大会も16回目だとか? 初めて石岡のお祭りのお囃子や獅子舞も参加され、いつもより賑わったようです。太鼓や笛の音は夏祭りを盛り上げ、次第に浴衣姿の子供達が集まって来た。獅子頭が登場すると子供達は大騒ぎ。頭を噛まれ大泣きする子供や、噛まれたくて近寄る子供達。微笑ましい光景・・・目の前で見える獅子舞にも感動した。やがて辺りが暗くなつて来て、凡そ50分程の打ち上げ花火の大輪が・・・暑さを忘れるひとときを楽しんだ。

【8月】

・いよいよ夏本番・・・旦那は我楽多集めに凝っている? たまに役に立つものを作る。12センチ4方の機材空冷用の小さなファン。狭い作業場所(工房???)では誠に役にたっている。私の相棒で、優れもの。

かれこれ10年以上使っている手作り扇風機に改造?

・夕方久しぶりに、やさ温泉“ゆりの郷”に行った。草刈り等の諸作業後だったので、ゆつくり温泉に浸かった。夏休みそしてお盆の所為もある

のか、家族連れで賑わっていた。夫は年1度の胃と大腸の検査が済み1段落・・・出かける時、何年も履いたことのないズボンを難なく履いているなどと思ったら、体重が4キロ減ったとの事。たった3〜4日アルコール無し、お粥生活でそんなに減るものなのか、吃驚。これが持続できればいいのですが・・・!!

・毎日続く猛烈な暑さも、もう慣れてしまい35度位では驚かなくなっている。今日は竹細工の日。以前から師匠の工房に吊るしてあるガラス風鈴が気になっていた、その風鈴に挑戦して見た。竹ヒゴは細くて大変薄く、加工が難しい。竹ヒゴづくりをしていては夏が終わってしまうので、用意しておいてくれた。形が整うのが大変で、そこは師匠の魔法の手。きれいに出来上がる。中にガラス風鈴を入れるとなんと涼やかな音色が、これで暑さを乗りきれかな?

【9月】

・9月に入ると、朝の風に秋を感じるように・・・。

この夏の暑さで手入れ出来なかった畑の草は1メートル以上延びきり、穂先では種が舞い上がっている。電動の草刈り機を買い使ってみるも、あまりにも草が長く、絡まってしまい使えません。

ここで、手でやるのが一番かもとノコギリ鋸で草と格闘、心の中で千里の道も一歩からと唱えながら、ひと草ひと草引き抜き、すると、だんだん楽しくなってきた。抜いた所との明らかな差。暫く頑張ってみよう。

・森の中のカフェに行ってきた。ここは今年春頃

オープンしたモンゴルのゲル（遊牧民の移動性住居）による、今流行りのグランピングの施設・・・。

此処のゲルは、モンゴルから直接船便で運び組み立てたと言う。其のゲルが6棟建っていた。モンゴル料理は粉と塩と羊の肉などのシンプルな材料で出来ており、4人で3種類ほど頼み、食の細くなった我々には充分でとても美味しかった。

・予てから注文していた表札が出来上がる、これで初めての方も迷わずこられるでしょう。

・久しぶりの涼しさ・・・その涼しさに誘われて、夫の遊び場の沼に行くとも一面の水草、こんな密集したもの初めて見た。もうすぐ魚とりの仕掛けかけられなくなるかも知れません。

・今日は、クラリネット、フルート、ピアノによる「まんまや」コンサート・・・お馴染みのお客様で会場は満席。和やかな雰囲気でもとても楽しい時間が過ぎ、此の「おそば屋さん」でのコンサートも何回目になるのやら、マスターのお孫さんも大学生、今日はお手伝いをしていた。お客様もそれなりにお年を召して、お互いに労りあって、次回まで元気でねと別れた。



《子供の頃の思い出》（後編） 山中サチ子

鬼の自にも涙

咲いた 咲いた 桜が咲いた そうです 私が行くまで散らずにいてね
お父さんに車椅子でおしてもらって お出掛けするの大変だから
見に行ったら いいとこみせてね お願い

痛い 痛い こんなに足が痛かったら 歩けないじゃない なんにも悪い事してなかったのに何ででも 実は結構悪い事して生きて来たの ばちが当たった

それならそれでもいいけど もう少しお手柔かににしてももらえないかな
これからは清く正しくしますから たのみます

ストレスって自分で作ってしまうのだそうです
すべからく物事気の持ちよう
そう確かにそうです

でも心ってまるで 別の生き物 私の意志にかかわらず 勝手におちこむのです
何とかしようと思っても ますます心は胸いっぱいふくらみ 私を苦しめる
心とはまったく困った生き物です

いも虫があるいている 元気はつらつ せっせと歩いている
うらやましい だってやがてちようちようになつたら 空をとぶんでしょ

いいなあ、私もいも虫になりたい

ヤー、すごくいい天気、こんな時、家の中にいるなんて、おおばかよ、お出掛けしなくちゃー
そう思うんだけど、どこにも行けない、今日は足が痛いからだめ
家の中で、もやしになっちゃおう、残念

ガソリン税、ザンティ税率期限切れ、テレビから流れてくる

そんな時、私の耳に、下手くそに啼く、うぐいすの聲がとびこんでくる
ネエ、ネエ、うぐいすがないているよ、そう言っても、誰も知らん顔

ガソリン税とうぐいすの声どちらが大切なものでも知らん顔

久しぶりに娘がやって来た、焼肉たべに行こうよ、ジュージュー、みんな寡黙にしてもくもくと食べている
美味しいものを食べていると、無口になるって本当だ

夫が幸せだなーと突然言う、私も大きくうなずく、本当にこんな時を幸せと言うんでしょうね、おまけにお支払い娘、言うことなし

またまた娘がやって来て、冷蔵庫を、そうじする、という
はい、終わりましたよと、中に入っているのは梅干しのかめだけ
いったい家の冷蔵庫には何が入っていたの

雲が流れて行く 天高く気ままに ながれていく
どこへ行くのだろう 行く当てあるのだろうか
ふわふわと ふり返る事もなく ながさめの言葉
もなく

私は一人ぼっちで 雲をながめている

好きな花をと聞かれれば 私は椿と答える

冬の寒い朝 凜として 赤い花をつけてさいてい
る

しおれたり 枯れたりする姿を 見せず 終わり
は首から落ちる いさぎよさ

私もあやかりたい 椿のように

風に紫色の色をつけ 小さく揺れている

都(みやこ)忘れ だれがどんな想いでつけたのだ
ろう 知る事はできないけれど

でも少しはわかる様な気がします 都忘れ 本当
に素敵な名前ですね

人間は犬が好き(中には嫌いな人もいる)

犬は進化の途中で会議を開き 人間と友達になる
事にしたそうです

そうすれば安泰な大生を送れると思ったから
古代の昔から 人間と犬はかわって来ました

でも人間とちがつて 犬は好きな人を やたら変
えません

人は都合に合わせて好きな人を変えます

どちらが先に好きになったかわかりませんが ま
あととあえず人間と犬はけつこう良い関係です

これから先もこの関係は続くでしょう

リンネテンセイがあるならば 私はないと思いま
す あればいいなと思いますが つまらない魂で
すが 私だけで終わり

一度だけなのですから 精一杯 生きなければそ
う思います

でも心の中でちよつぷり 次に生まれてこられる
ならば すごい美人に生まれてきたいなんて・・・

ひまわりはいつも太陽に 向かっている

真夏の暑い陽ざしをもとせず 青空をバック
にいつも笑っている 私もひまわりの様になりた
い あこがれの花 ひまわり

大病をするって やだね でも考え方を変えれば

忙しい生活の中 まとめて休憩
そしていろいろな事を考えられる もつともあん
まり考えないほうが いいかもしれない

それにこれから先 必ずうれしい事がまっている
苦しい事の後は

暦の上では 立冬 やはり朝晩
病室の窓から抜けるような青い空が見える。

それを見ているととめどなく涙が溢れてくる。
鳥は黒い大きな羽を広げ、そこを横切っていく。

「バ力。おまえはそんな泣き虫なのか？」といわ
れたような気がします。

母が「そんなにたくさん病気を背負い込んでかわ
いそうにね。恨むんなら私を恨みなさい。産まな
ければ良かったかもしれない。」

「お母さんそれは違うよ。産んでくれて有難うと
言える日がきつとくる。」

鉛筆も持てない。大好きな編み物も棒針も持てな
い。悲しくてくやしい。

何言ってるんだ。星野富弘さんあの人は口であんな
に素晴らしい絵を描くではないか。

努力すれば人間何でも出来るんだ。
努力せずにブツブツ言っている自分が恥ずかしい。

病室の窓から見える電線に小鳥が50羽もとまっ
てミーティングをしている。

最近では会議が決まってどこか暖かいところへ行っ
てしまったのでしょうか。

一羽も来ません。ちよつと寂しい。

小鳥には小鳥の生活があるのだから仕方がない。
私が退院するまでに一羽くらい来て欲しい。

病室の窓から見える電線に小鳥が5羽帰って来ま
した。

「サチ子頑張れ。」励ましてくれていている気がして、
とてもうれしくなりました。

私は身体障害者一級です。なのに、2つの病気を
背負っていかねければなりません

でも泣いているわけにはいきません。
鬼の目にも絶対泣きません。そう誓いました。

お腹が痛い。何か悪いことでもしたのでしょう
か？ 神様。

悪いことをしたのであれば、悔い改めます。
ですから、そんなにいじめないで下さい。手を合
わせてお願いしました。

もしかしたら、これは苦しい時の神頼みなのでし
ょう

ようね。

病気をすることは、決して良いことではありません。

でも、悪いことばかりではありません。

友人から涙が出るほど心温まる便りをもらいました。

健康な時には分からない、人の愛情を感じます。意外な人がすごく優しくかったりするものです。

お腹が痛くて一晩中眠れなくて、気弱になっていました。

そこへ主人が見舞いに来てくれました。救世主が来たような気分で、ホットな気持ちになりました。一時間ほどすると椅子から立ち上がり、「俺、家に用事があるから、帰るよ」

「どんな用事があるの」と聞きました。

「犬の健康診断に行くんだ」私は唖然としました。

「犬だって家族の一員だし、かわいいだろう」たしかに。

私は表情を変えずに「帰ってもいいよ」と言いました。

すると主人はそそくさと帰って行きました。そうするとまた鬼の目から涙が、こぼれました。

二〇一〇、二、一八（木）

病気をともに闘った戦友が　つい最近亡くなりました

もしあの世というものが　本当にあるならば　田谷先生と利き酒会をしているでしょう

でもあの世から帰ってきた人がいない　本当にあるのかないのかわからない

それは人間が勝手に死を恐れ　勝手に想像した世界ではないでしょうか　もし本当にあるならば　私も会いたい人がいるから行きたい

最近、知人・友人の卦報をよく耳にします　三〇代の時には全然そう言う事がありませんでした　やはり年をとったなあーとしみじみ思います

「形あるもの必ず滅す」

「必然不滅のものなどこの世に存在しない」

ますます知人・友人を耳にするでしょう　自分も必ず滅する時がくるでしょう

ボーナス

私の幼少のみぎり、家はかなり貧乏であると思っておりました。思いこみなら良いのですが、父はしがないサラリーマン。間違いなくビンボウだったのです。

又、昭和20年代の後半、日本の国そのものがビンボウだったのです。給料日が間近になると、母はいつも今月は苦しいと、ため息交じりにいうのです。それを聞く度に、私は言い知れぬ不安に陥るのです。別に私のせいで苦しいわけではないにしても、責任の一端は自分にもあるように思うのです。

ある12月のこと、師走の風がピューピュー吹き、とんでもなく寒い夕暮れに父が帰って来ました。父の頬つぺたと耳が真っ赤なのです。風にさらされたのでしょうか。でも目だけが笑っているのです。

父は通勤バックを上り口に置くと、手をパンパ

ン鳴らしたのです。

「ボーナスもらったぞ」そう言って内ポケットから封筒を取り出したのです。母もこれ以上はないという顔で、手を出したり、引つめたりするのです。そのうち父は、その封筒を内ポケットにしまっってしまったのです。「今度の日曜日うまいものでも食に行こう」と言いました。

私達は、約束の日曜日、デパートの食堂のウィンドーの前にたたずみ、ロウでできたサンプルが、美味しそうに並んでいるのを眺めていました。

「さあ、うまいものを食べ」父は、しゃがみ込むようにして言うのです。私はチキンライスに目が行了きました。でもその時、いやな予感がしたので。ここで一杯お金を使ったら、また母が今月苦しいというに違いない。私はラーメンのサンプルを指さしたのです。『そんな、ものでなく、もっと美味しいものにする』でも私はラーメンのサンプルを指さし続けたので、両親もラーメンになったのです。子供心に気を使っているのに、また母は今月苦しいといっているのです。

いつの頃、どうして変貌したのかわかりませんが、大人になった私は、宵越しの銭は持たぬとまではいきませんが、それにほぼ近い生活をしていました。節約する事を考えるなら、稼ぐ事を考えるなどといっているのです。本当の自分はどちらなのでしょう。わかりません。

駄菓子屋

小学校の近くに一軒の駄菓子屋がありました。夫に死なれたのか、それとも捨てられたのか、おばさんが一人でやっておりました。

ちよつと太つていて下駄のような顔と引つめ髪目なんか、とても意地悪そうでした。

まあ、察するに、夫に捨てられた方が、当たっているかもしれない。店の奥に三畳ほどの座敷が有つて冬には、炬燵に布団がかかつてるのです。練炭火鉢の上にはおでん鍋がのっているのです。

あまり褒めたくはないのですが、これが絶品でさつま揚げとコンニャクの二種類で一本五円、私の小遣い一〇円だと、さつま揚げとコンニャク二本で終わりでした。この味が大人になるまで、忘れられないほど、美味しかったのです。

町一番の酒屋の娘、そいつが来ると、駄菓子屋のばばあ、こう言う言葉を使うと、私の品格が問われるので、やはりおばあさんにしておきます。『〇〇ちゃん、いらつしやい。寒いでしょう、お上がり』その娘は、ボンボンと座敷に上がり炬燵に入るのです。

ちなみに私は、一度も上がった事はありません。だって私は一〇円しかないのですから、でもこれも何かの物語に似ていませんか。樋口一葉の「竹くらべ」です。酒屋の娘は、とりまきの子たちに大盤ぶるまい。私はとりまきではなかったので、一度もご馳走になった事はありません。時々取り巻きになつちまおうかな、などと思つた事もあります。

ある日、その駄菓子屋に私の目を引くものが入つたのです。一円で引く籤(くじ)なのですが、一等はネックレス、金色に輝く素敵なネックレス、家に帰つてもそれが目について離れないのです。小さなマス目に紙が貼つてあつて、それに穴を開けると、その中に紙が入つていて、当たり外れ

が書いてあるのです。学校帰り、その籤の穴を見ながら帰るのです。

そしてネックレスが有る事も確かめて、その籤の穴が三分の一になった時、私は一〇円を払つて挑戦したのです。十回勢いよく穴を開けたのですが、当たらないのです。あと穴の数は二十個、二十円が必要なのです。明日来ようか、でも、もしこれが他の人に当たつてしまつたら。「おばあさん二十円必ず持つてくるから、ひいてみい」ちよつと驚いた顔したおばあさんは、『じゃ特別いいよ、でもお金は必ず持つて来るんだよ』それで私は、勢いよく、二十個の穴を開けたのです。

ところが、ところがですよ、全部穴を開けたのに当たらないのです。「おばあさん、なんで全部引いたのに当たらないの、おかしいでしょう」私は泣きそうになつてしまいました。『さあ、私のせいじゃないよ。当たらないものは、当たらないんだよ』私は駄菓子屋を飛び出しました。

もうこうなつたら品格もヘチマありません。くそばああ、ペテン師、詐欺師、絶対許せない、借金すぐ払うと思つたら、大間違いだ。

それからしばらく、私は駄菓子屋寄りつかなかつたのです。当然ですよ。でもある日家に帰つてみると、母が怖い顔をしているのです。『駄菓子屋に借金しているんだつてね。子供の内から借金するなんてとんでもない。すぐに払つて来なさい』そして頭を一回ゴーンと、叩かれました。「あのばああ、お母さんにいいつけたのだ」私は不本意だったのですが、二十円を握りしめ駄菓子屋へ向かつたのです。光る物が好きだったのは、この頃からだつたのです。それから三十年たった四十歳の

頃には、素敵な、ネックレスを売る側に回つたのです。

小野先生

小学校四年生の時、受持ちの先生の名は小野先生でした。当時40歳ぐらいで、ちよつと小太りで、お世辞にも美人とは言ひ難い、でも育ちの良さを匂わせていました。しかし、残念ながら男性との縁は、いかにも薄そうでした。

噂によると、彼女のお父さんは外交官だったとか、そうではないとか、定かではありません。彼女の家は、町外れにあるのですが、建物は古いのですが洋館なのです。

私は、その前を通る度、多大な好奇心を持つのです。二階建てでトンガリ帽子の先には風見鶏がついていて風に向かって止まつているのです。これだけだつて凄いですよね。だつて普通の家には、風見鶏なんか付いておりません。

ある日、小野先生が『今度の日曜日に女子生徒だけ家にいらつしやい』『わー』と歓声が上がりました。「先生、なんで男子はダメなんですか」ガキ大将の三郎が、ふて腐れた顔でいったのです。『今回は女子だけ』私達は日曜日に神社の境内で待ち合わせをして、先生の家に向かつたのです。私の胸の中で好奇心がフツフツと音を立てているのです。真つ先に私が玄関のチャイムを押したのです。カーンカーン、まるで教会の鐘のような音が鳴り、先生が笑みをたたえて立つていました。ちよつとギシギシ音のする廊下を通り、応接間に案内されました。

「うあーすごい」大きな部屋には暖炉があり、カ

ーテンは少し日に焼けているがビロード色をしており、そして大きな応接セットがありました。

やっぱり先生のお父さんは外交官だったのかも
しれない。いや絶対そうだ。それでなければ、こ
んな外国の人が住むような家には住めないはずだ。
『好きな所に座りなさい』

私達は、適当な場所に座りました。その時ドア
をノックする音がして、太ったおばさんが入って
きたのです。その顔は、先生そっくり、『母です』
紹介されなくてもわかります。『皆さん良く来まし
たね。ゆつくりしていきなさい』そう言つて紅茶
を出してくれたのです。

お砂糖を、少し入れて口元まで持つていくとい
い香りが、私の鼻を刺激するのです。

なぜって、私生まれて初めて紅茶なるものを飲
んだのです。『今日、皆さんに来ていただいたのは
裏庭に、野イチゴが沢山なっているのです。それ
を摘んでジャムを作りましょう』そう言つて先生
は立ち上がったのです。

勝手口から裏庭に出てみると、日差しの中、野
いちごが一杯ありました。私達は歓声を上げ、三
人一組になり、ざるを持つて積み始めたのです。

一つを口の中に顎張つてみると、甘酸っぱい味、
私は少し首をふるわせたのです。あつと言う間に
野いちごはざる一杯、それを台所に持ち込むと、
先生のお母さんが大きな鍋にいちごを入れ、お砂
糖を沢山入れて煮てくれたのです。やがてジャム
が出来上がり、私達はそれをパンに付けて食べた
のです。うまい、うまい、これも私達にとって忘
れられない味となりました。

小野先生、ご結婚なさたのだらうか？それとも
まだお一人なのかしら。その後の事は、わかりま

せん。それから間もなく、私は青森に転校してい
ったのです。

娘と私

私は娘にとって決して、いい母親ではないかも
しれません。実母当時45歳が元気でしつかりし
ていたので、娘の世話をすっかり任せて仕事に没
頭していたのです。

職場の新人社員は、しばらくの間、私がオール
ドミスだと思つていた人が、何人もいました。家
庭の臭いなどさせる事なく、仕事に熱中してい
たのです。やがて娘も大きくなり(高校生)、休日に
二人で食事に出かけたのです。『私ね、子供の頃、
いつもママがいなくてすごく淋しい思いをしたの
よ』だから自分の子供は、自分で育てようと思つ
ているのよ』淡々というのです。

それを聞いた私、かなりショック、私は子供を
犠牲にして仕事なんかしていたのだ。なんと、あ
やまった人生を選んでしまったのだらう。オール
ドミス・ママは、職場に行つても元気がないので
す。

『どうなさつたのですか、元気がないですね』A
さんが声をかけてくれたのです。『娘にきつい事言
われてショックなのよ』でも遊んでいるわけでは
ないし、きつと娘さんもその内、良く解つてくれ
る時がきますよ。元気を出して下さい』根があま
り複雑に出来ない私、すぐその気になって又オ
ールドミス・ママになってしまったのです。

それから何年かの歳月が流れ、また休日に二人
で食事に出かけたのです。『ママすごいよね、部下
なんか一〇人も持つていてかつこいい、キャリア

ウーマンだよ。私も仕事に生きる女になりたい
から、私が子供産んだらよろしくね』えー、あの
時のお言葉はなんだったの、自分が言つた事忘れ
てしまったの。でも、ホツとした気持と、良きに
しろ悪しきにしろ私の生き方を認めてくれたのだ。
そう思うと胸の奥から喜びが込み上げて来たので
す。

時が過ぎて、彼女は今、バリバリのキャリアウ
ーマン、でも本当のオールドミスになっているの
です。

農耕馬のしっぽ

我が娘は、まったく私に似ていません。

夫婦は他人同志なのですから、どちらかに似れば、
それはあたりまえの事です。私は父親ゆずりの猫
毛、娘はバリバリの熊毛、本当に対象的です。娘
は幼い頃から、ショートヘヤーが好きになれない
様で、髪の毛を伸ばして、それをうしろにまとめ
て縛っています。いわゆるポニーテール、ところ
がポニーテールなら、かわいいのですが、熊毛の
彼女は、農耕馬のしっぽ、ちつとも可愛いくない
のです。『ねー髪の毛切つたら、その方が可愛いと
思うけど』『いやだ絶対に切らない』何度言つても
返事は同じ、自分の子供だとは言え一個の人間、
だから親の思う様にはいかないもの。そんな暖か
いある日、彼女は廊下の日だまりで庭のほうを向
いて読書中(マンガ)よほどおもしろいらしく熱中
しています。私は、切れ味の良いたち鋏(はさみ)
を持つて後ろからそーつと近づきました。彼女は、
私に気づく事なく、読書中、私はむんずと、しっ
ぽを掴んで、ジョリジョリと切り落としたのです。
『ギャー』まるで手か足でも切られた様な、さけ

び声「ママひどい」娘は、しつぽを握りしめさめざめと泣いたのです。ちよつとやりすぎたのかなと私も少し反省しました。

彼女は、やはりショートにする事もなく、現在も長い髪をしています。『なんでそんなに長い髪にこだわるの』と聞いてみると、「私丸顔でしょ、短い髪は、似合わないのよ」

なるほど、そんなものか、でもそれって、思いこみだと思うけれど、今は、大人の彼女にもうなにも言えません。

人間、二歳の頃の記憶なんてほとんどありませんよね。これは親の自己満足で、娘を動物園に連れて行ってあげたくなり(彼女は当時二歳思いだった)、やめられない性分、それがまた曇り空の寒い日でした。ねんねこ半てんを着こみ、娘には毛糸の帽子をかぶせ電車で出かけたのです。上野駅を降りて、動物園の方へ向かうと、雨がポツリポツリうわーまいった。しょうがない傘でも買いかと三百円の傘を購入したのです。私は、雨にも風にも負けず、動物園に一直線、すると、見知らぬおばあさんが、「奥さん、あんたはぬれないかもしれないけど、お子さん、ずぶぬれですよ」その目に敵意がこもっていました。ふりむいてみると、あら本当、私は、自分だけ傘をさしていたのです。『あら、ごめんごめん』すると娘は、ニッコリと笑うのです。こんなふできな親を持って、この頃から耐えているのか、お前は、きつと大きくなったら偉い人間になるに違いないと、その時は思ったのですが、現在の彼女、あまり偉くもなく、普通の人です。

娘四歳のころ、又上野動物園に行きました。夏のあつい日さしの中、圏内をめぐり、娘も大喜び、

昼は、上野駅近くのレストランに入りました。そこでハンバーグライスを食べようかと思ったのですが、ふり返ると、娘がいなのです。『あら、どこに行つたのかしら』するとウエイトレスが、ふつとんで来たのです。「お子さん泳いでますよ」『えー、どこで』そのレストランの中央に、大きな池があるのです。娘は、それをプールと間違えたのです。びしょびしょの服で帰るわけにいかず、えらい出費、まったく困つたものです。

〈後記〉

本山中サチ子さんは風の会新会員である「ヤマナタサダオ」の奥様で、平成22年9月に64歳でお亡くなりになりました。ここに生前に残された随筆を載せます。前回からの続きです。



水雲問答

(3)

(木村 進)

【はじめに】

松浦静山 甲子夜話 巻39【1】より

これは江戸時代の(長崎)平戸藩の藩主であった松浦静山公が晩年の20年間に毎日書き残した随筆集「甲子夜話(かつしやわ)」の中に挿入されている2人(水・雲)の手紙による問答集を理解しようとする試みです。

雲：白雲山人・板倉緯山(しゃくぐん) 1785～

1820年 上州安中の藩主

水：墨水漁翁・林述斎(じゅつさい)：1768～

1841年 儒学者で林家(幕府の大学頭)中興の祖

松浦静山・松浦 清：1760～1841年

(8) 周易

雲：

『周易』は熱読し仕り候所、大(おお)いに処世の妙これに有りやに存候。

『易』を知らざれば季世には処し難しと存候。

(訳)

『周易』(紀元前の中国周王朝時代の書物に書かれた占い術から時代を経て、儒教の經典にもなった易経)を熟読しておりましたが、この書は実に処世術に必要なことがたくさんあると思います。この『易』(儒教的な解釈)を知らなければ、季世(これからの世)は処しがたいと思います。

徳義の弊は述情に陥り、英明の弊は叢脞(そうそ)に成申候。人君は人を知りて委任して、名実

を綜覈（そうかく）して、督責して励すより外、治世の治術は之れ有るまじくと存候。

水..

『易』は季世の書とは申し難し。盛世季運いずれの時とても、天人の道『易』にはづれ候ことはこれ無しに候。先づ「程伝」にて天と人の同一道理をとくと考え給ふべし。

以上のご質問、あらかた答え申し上げ候。大分とおん尋ね方、力相見へ、はなはだ珍重仕（つまつり）候。読書空言の為ならずして、実践の方に深く習い候の徴（しるし）相見へ申し候。折角ご勉勵の程、お祝いいたし候。

謹言。二十日夜雨、燈火にて書す。（以上、戊辰（ぼしん：1808年）の秋、予が都下にいる時の問答）

（訳）

「易」についてはこれからの世の処世の書とまでは言えないでしょう。

盛世季運（国が盛んな時代や未来の運）いずれの時といえども、天人の道『易』から外れることは無いでしょう。

まず易の解釈としては、宋代に程頤（ていゐ）が書いた「（易）程伝」《易経の注釈書》を読んで、天と人との同一道理をよくお考え下さい。

以上のご質問、あらかた答えいたしました。貴殿の問いは、勉学の力がついてきているのが見え、大層結構なことと思われます。読書が空言（空論）のためでなく、実践の方向に深く向かっている徴

（しるし）が見えてきました。苦勞されて勉学に励まれておられることを、お祝いいたしましょう。

謹言（謹んで申し上げる）。二十日夜雨、燈火にて書す。

（以上、戊辰（ぼしん：1808年）の秋、予が都下にいる時の問答）

（9） 治国の術は多端

雲..

凡そ治国の術は多端、其緊要は人を知るの一件に帰し申し候ことと存候。人を知るの難（かたき）は堯舜（ぎょうしゆん）の難（かたし）とする所にして、常人の及ばざることながら、治国秉政（へいせい）の上にてはこの工夫專一と存候。尤（もつとも）朱文公（朱熹：朱子学の祖）、人に陰陽ありの論は感服仕り候。なにぞ慥（たしか）なるご工夫候はば伺いたく候。いづれ活物は常理を以（もつて）はもつて推されまじくと存候。

（訳）

国を治める術は複雑で多方面にわたっており、その非常に重要な要件は人を知るといふ一点に帰すると思われます。人を知ることの難しさは堯舜（ぎょうしゆん）中国古代で徳をもつて天下を治めた聖天子堯（陶唐氏）と舜（有虞氏）の二人の帝王でも難しいことで、常人ではとても及ばないことであるが、国を治め統治する上ではこれを工夫していくことが第一でありましよう。

もつとも、朱文公（中国・宋代の儒学者朱熹（朱子）（しゅき 1130-1200）の尊称）の「人に陰陽

あり」の論には感服いたしました。何か確かな（人を知る）工夫がないかお伺いたしたく存じます。しかし人も活物（いきもの）ですから常理（変わる）ことのない道理を以て推進はできないと思われます

水..

此ことは実事中の最大事、最難事に候。惟聖難諸と申（もうす）より、世々の賢者皆手をとりに候こと別に才法あるべきとも申しきせず候。

陰陽先手近く候はば、是迄効験多く候へども、大姦に至り候ては、陰を内とし陽を外にして人を欺（あざむき）候こと往々にこれ有り、陰陽も一図に拘（かかわ）り候て手を突き申し候。

都（すべ）て古人の訓言は、大筋をばよく申したる者に候へども、細密枝葉、変の極に至り候ては、説破も及び難（がたき）の義多く候。つまりの所見る人の高下により申すべきや。山水を見るも、其（その）人品の高下に従ひ候こと、羅鶴林風流三昧の論に候へども、人も其通り多（おお）か）るべく候。この方の下の者は随分見通し申すべく候。上段になり候と、見損じ申候。見る人の見当尺に善し悪しの論も立ち申すべき、込（と）も我が分量の外の事業は出来申さぬもの、人知り込（とて）も同一様事たるべく候。

然（しかれ）ども謙讓しては大事は出来申さぬもの故、我より上段の人込（とて）も、平等に監破の心得はなくて叶わなきことかと存候。

是は大難問にて何とも別（ほか）に申すべきようも之れ無く候。

(訳)

このことは実際に行う事の中で最大事であり、かつ最難事であります。惟聖(いせい)難諸(なんしよ)と申すより、世の中の賢者が皆手を取りあうこと以外に良い方法があるとは思われません。

陰陽(朱子学)では先手近くであれば効驗(効果)が多くありますが、大姦(おおいに悪賢い)ことになれば、陰を内とし陽を外にして人を欺くことは往々にあることです。陰陽もそればかりに係わっていると躓いてしまいうでしょう。

すべて昔の人の訓言(教え)は、大筋を言った物であります。細密や枝葉のような、変の極に至る議論は説破(せつぱ)・説き伏せる)するのにも及びにくい義(条理)が多いです。

つまりのところ見る人の高下(上下)によって申すものです。山水を見るにしても、その人の品格の高下(上下)により違ってきます。また羅鶴林(沙羅双樹の林・釈迦の入滅の時に沙羅の林が一斉に鶴が飛んできてように白くなったといい伝え)の風流三昧(ざんまい)の論でありますが、人もその通り多いでしょう。

この下の者は随分見通せるといえます。しかし上段にならずと、見損じたというようなことをよく申します。これは見る人の見る尺度にある善し悪しの論が異なる事で起ります。とても我が分量の外(ほか)の事業は出来ないものです。「人を知る」ということも同様であろうと思います。

そうはいっても謙譲し(遠慮し譲って)いては大事はできないことです。我より上段の人であっても、平等に監破の心得がなくて叶わないことと思います。

これは大難問にて何とも別(ほか)に言いよう

ありません。

(10) 国家の禍は私欲より起る

雲..

凡そ国家の政をするに公儀と申すことを立て申したし。これは国家の禍はとかく人君の私欲より起り、或は大臣の私意より起り、群下の朋党より起り申候。其基は社稷(しゃしよく)を忘れ私に曳かれ申候故に候。故に小子の工夫にてこれを救ふ術は、公儀を立て申すべくと存候。公儀とは、人君は社稷の為に発せざる言行は臣下聴用せず。又臣下も社稷の為を忘れて希旨の言は必ず貶斥(へんせき)すべし。此の若く(かくのごとく)して君臣相和し、朝廷に一箇の公儀あるのみにて、国政安静に参り申すべきやに存候。君は社稷に臣下と共につかへ、臣下は君に仕へて社稷に背かざるを以て忠とせば、国家治まらざることは無しと存候。

(訳)

およそ国家の政(まつりごと)をするには公儀(公権力)というものを立てなければなりません。国家の禍は、とかく人君の私欲から起り、または大臣の私意から起り、また下の者たちが仲間と党を組むことから起ります。根本は社稷(しゃしよく)・国家)を忘れ、私にひかれてしまうことで間違うのです。

そこでこれを救うためには公儀をたてなければならぬと思います。

公儀(公権力)も人君が社稷(国家)の為でなく私意私欲で発した言行には臣下の者は聴いてく

れません。

また、臣下の者が社稷を忘れて私意私欲をはかることも必ず取り除かなければなりません。

このように君臣(君主と臣下)がお互いに和して、朝廷にただ一つの公儀があるだけとなれば国政は安静になることでしよう。

君主は社稷(国家)に臣下と共に仕え、臣下は君に仕えて社稷(国家)に背かないことを忠とすれば、国家が治まらないということは無いと存じます。

水..

公儀の論一々(もつとも)に候。然れども、その公とする所亦(また)大小軽重の弁之れ有り。人品の高下にて公にも高下之れ有り、近世とても公なきには之れ無く、其公皆小にして、大処に至り候と私に成り申候。つまりの所、人才葛爾(さいじ)・非常に小さいさま)の至りにては何もかも参らぬこと。大才の者列立して公儀を朝廷に張り候はば、千年と雖も一太平の化を透徹申すべくと存候。どうぞ公私の分をつけ候て考え候程の人をほしく候。それさへ之れ無く候へば、中々に公儀の論など行はるべきとも存ぜられず。そのくせに心中は皆公儀と心得居り申候人ばかりに候。

(訳)公儀の論は一々(もつとも)です。しかし、公というものには大小とか軽重とかの問題があります。人の品格に高下があると同じく公にも高下があります。近世でも公のないものはなく、ただこの公が皆小さくなったり、大きな問題になると、この公が私になつてしまします。つまり、人才が葛爾(さいじ)・非常に小さいさま)に至っては何

もかもうまくいきません。大いなる才の持ち主がずらりと並んで公儀を朝廷に張れば、これから千年といえども太平の時代をも透徹(貫き通す)ことできると思います。

どうぞ公私の区別をはっきりつけることを考え、また区別をつけられる人がほしいものです。

この公私の区別さえもできなければ、中々、公儀の論などは行うことはべきではないと思われます。しかしこういった連中に限って、自分のすることは皆、公儀であるとはばかり考えているのです。

(コメント)

この最後の辺りは、今の政治家にも当てはまりそうですね。

公私の区別もつけられず、自分さえ良ければ、次の選挙に勝てれば・・・などと全体の国民に対する(公に奉仕する)道徳感・使命感がなければ政治も衰退していくことでしょう。

(11) 才は徳に及ばず

雲..

世の中を達観仕候に、一種の公平、温厚庭底の人、才もなく術もなく、しかも高位に居して人心服し、天下安寧に化すること有るやに存候。公平の徳、大なるが故にいたす所に之れ有るや。公平の二字は宰相の人なくて叶はざることに候。公平、温厚の二条はずれて、高位に居て終を全くする者なきやに存候。是を以て見れば才は徳に及ばぬことと存候。

(訳)

世の中をよく観察しますと、一種の公平、温厚な人は、才(才覚)も術(行う力も)ないのに高位にいて、人民が服し、天下が平和になることがあるように思います。公平の徳が大きいからうまくいくのでしょうか。公平の二字は宰相(大臣)の人には無くてはならないことの要件です。公平と温厚の二条からはずれて高位にいても、終りまで全うする者はいないと存じます。これをもつてみれば、才は徳に及ばないことと思います。(才より徳が大切)

水..

在上不覺は聖語にも見へ、上位の人の心得尤に候。既に実の寛厚と申す徳には之れ無く、才智不足にして寛厚に類し候人さへ全く候。まして才智全く備(そなわりて)候て寛厚の徳あらば、祖全き、論を待たずして明に候。今の人、才は寛厚の量なく苛刻に落ち、寛厚に見へ候は皆愚昧(ぐまい)に候。此所を備へ候人出(いで)候はば当る者之れ有るまじくと存候。

(訳)

上に立つと、寛でない方が賢く見えますので、上位があまり寛容にせずにはビビシとやりたくなることもっともです。

また本当の寛厚ではなく、才智が不足しているために寛厚に見える人さえおりました。まして才智が全て備わって、さらに寛厚の徳があればそれは、全く論を待つまでもなく明白でしょう。

今の人、才があっても寛厚の量がなく苛刻になり、寛厚に見えるのは皆、愚昧(ぐまい)・愚かです。此の点をわきまえておる人が現ればこれ

に勝る者はいないでしょう。

(12) 去私(私を去る)の方法

雲..

凡そ国家の敗は私より起り申候。一体の志(ころざし)社稷にあれば、私ありと云ふとも亡びず。漢武これなり。一体の志私にあり、飾るに社稷を以てすれば敗る。唐明皇これなり。私意を去り方いかか心得申すべきや、伺ひたく之れ有り候。

(訳)

およそ国家が敗れるのは「私」(私心)から起ります。皆の心が社稷(国家)にあれば、「私」がありましても滅びることはありません。

これは漢の武帝(前漢の第7代皇帝)が良い例です。これに対し、皆の心が私にあり、社稷(国家)がお飾りになれば敗れます。

これは唐明皇(唐の玄宗は唐を繁栄させていたが、楊貴妃に夢中となってやがて国が滅びた)が良い例です。

水..

私を去るの術、学に勤むる外(ほか)之れ無し。

(訳)

私を去る方法は、学ぶことに勤(いそ)しむしか方法はありません。

(続く)